News Release

ＪＴＢ広報室

感動のそばに、いつも。

〒140-8602 東京都品川区東品川 2-3-11 TEL.03-5796-5833 FAX.03-5796-5848 http://jtb.jp/

2012 年第 113 号

(2012. 12. 20)

2013年の旅行動向見通し

レジャー・旅行への意欲は堅調に推移

海外旅行人数、訪日外国人数は過去最高を予測

●国内旅行人数は 2 億 8,700 万人（前年比＋0.3%）
●海外旅行人数は 1,870 万人(前年比＋1.5%)
●訪日外国人数は 890 万人（前年比＋7.9%）

JTBは、2013 年の旅行市場についての見通し調査の結果をまとめました。この調査は、1 泊以上の日本人の旅行(ビジネス･帰省を含む)と訪日外国人について、各種経済動向予測、旅行消費者購買行動調査、観光関連動向等から推計したもので、1981 年の調査開始以来 33 回目となります。

推計した 2013 年の旅行市場規模は次の通りです。

		2013 年の見通し		2012 年の推計		2011 年
		見通し数値	前年比	推計	前年比	実績推計
総旅行人数(延べ人数)		3 億 570 万人	＋0.4%	3 億 443 万人	＋1.6%	2 億 9,969 万人
	国内旅行人数	2 億 8,700 万人	＋0.3%	2 億 8,600 万人	＋1.2%	2 億 8,270 万人
	海外旅行人数	1,870 万人	＋1.5%	1,843 万人	＋8.5%	1,699 万人
平均消費額						
	国内旅行平均消費額	32,000 円	▲2.4%	32,780 円	▲1.0%	33,100 円
	海外旅行平均消費額	250,000 円	▲0.8%	251,900 円	▲1.6%	256,000 円
旅行総消費額		13 兆 8,600 億円	▲1.1%	14 兆 200 億円	＋2.3%	13 兆 7,100 億円
	国内旅行消費額	9 兆 1,800 億円	▲2.1%	9 兆 3,800 億円	＋0.2%	9 兆 3,600 億円
	海外旅行消費額	4 兆 6,800 億円	＋0.9%	4 兆 6,400 億円	＋6.7%	4 兆 3,500 億円
平均旅行回数		2.40 回	＋0.01 回	2.39 回	＋0.04 回	2.35 回
訪日外国人数		890 万人	＋7.9%	825 万人	＋32.6%	622 万人

＊国内旅行消費額は、自宅を出発してから帰宅するまでの総費用。現地での買物代、食事代等現地消費分を含む。旅行前後の消費（衣類など携行品の購入費用など）は含まない。

＊海外旅行消費額は、旅行費用のほか現地での買物代、食事代等現地消費分を含む。旅行前後の消費（衣類など携行品の購入費用など）は含まない。

＊訪日外国人旅行は、人数予測のみで消費額は算出していない。

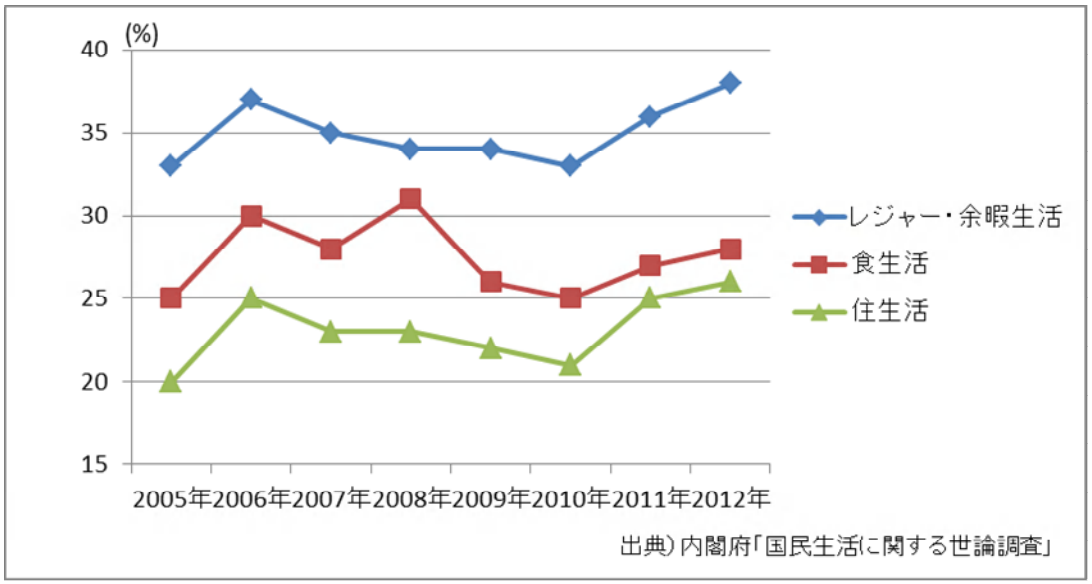
2013 年の環境

1. レジャー・旅行への意欲は堅調に推移

日本経済は東日本大震災からの復興需要と堅調な個人需要が下支えした中で、緩やかな回復が見込める状況にある。しかしながら、このところの世界経済の減速を背景に、為替動向や、欧州、中国などの対外経済環境の先行きは不透明である。

内閣府の「国民生活に関する世論調査」の「これからの生活の力点」の推移は、レジャー・余暇生活は 2010 年を底に、食住より高い比率で上昇している(図1)。これは単純に震災後の反動だけではなく、リーマンショック以降の「巣ごもり消費」から外に目が向きつつあることに加え、地デジ化やエコポイント、エコカー減税などの先取り消費が一段落した背景も考えられる。2013 年前半も引き続きレジャー・旅行への前向きな消費意欲は持続すると予測するが、後半からは、2014 年 4 月からの消費税引き上げが確定すれば、耐久財などへの支出に一部回る可能性もある。

(図1)これからの生活の力点の推移



2. 週末3連休は3回増加、旅行者数は国内・海外とも2012年を上回る

2013 年の旅行者数は、国内は＋0.3%、海外は＋1.5%程度で 2012 年を上回る見込み。総旅行人数は＋0.4%に増加する。2013 年の日並びに関しては、GW・正月を除く週末の 3 連休が 8 回と 2012 年より 3 回多くなる。GWは 4 月 30 日(火)から 5 月 2 日(木)まで平日が 3 日間入るため、前半 3 連休と後半 4 連休に分かれる形となり、前半のみ、後半のみと合わせて、連休の合い間の平日に休みを入れて旅行する人も増えると考えられる。8月の旧盆時期は8月 13 日(火)～8 月 15 日(木)が週の真ん中に位置するため、12 日(月)や16 日(金)の1日を休むことで 5 日連続の休みを取る人も増えそうである。

ゴールデンウィークの曜日　(4～5 月)

日	月	火	水	木	金	土
4/21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	5/1	2	3	4
5	6					

8月中旬の曜日

日	月	火	水	木	金	土
						8/10
11	12	13	14	15	16	17
18						

3. 海外旅行意欲は引き続き高く、LCCの国内外路線拡大で航空機利用の旅行が身近な存在へ

2013 年前半の為替レートについて 1ドル 80 円台後半を予測する経済研究機関も増えてきているが、円高基調には変わりなく(表 1)、海外旅行意欲は引き続き高い。また国内および海外へのLCCの運航路線も拡大する。2013 年の日並びに加え、安価な航空運賃が増えれば航空機を利用した観光旅行はより身近で関心が広がる。旅行先の選択にあたって国内と海外を比較検討する人も増えそうである。

(表 1)　年末の為替相場(東京外国為替相場／T.T.S　三菱東京UFJ銀行調べ)　(2012.12)

	2007年末	2008 年末	2009 年末	2010 年末	2011 年末	2012年12月初
1 米国ドル	115.15	92.03	93.10	82.78	78.74	83.33
1 英国ポンド	231.90	135.83	150.53	130.55	123.81	135.93
1 ユーロ	168.16	129.46	133.50	110.57	102.21	108.52
100韓国ｳｫﾝ	12.36	7.47	8.09	7.49	6.95	7.81
1 香港ドル	15.05	12.18	12.31	10.95	10.43	11.05

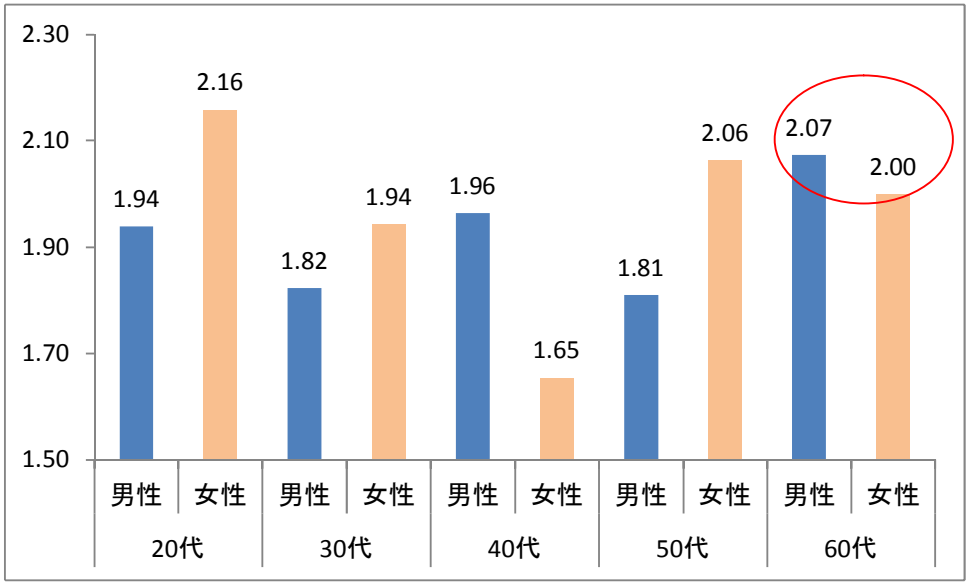
＜2012 年秋以降の主な国内LCC 3 社の動向＞

エアアジア・ジャパン	成田－ソウル(仁川)	2012 年 10 月 28 日就航
	成田－釜山	2012 年 11 月 28 日就航
ピーチ　アビエーション	関西－台北(桃園)	2012 年 10 月 16 日就航
	関西－那覇	2012 年 10 月 18 日就航
ジェットスター・ジャパン	関西－那覇	2012 年 10 月 28 日就航

4. 2013年も団塊世代の完全退職者層マーケットに注目

団塊世代が 65 歳に達する 2012 年以降、完全退職者は順次増加していく。完全退職者が増加することで、60 代の国内旅行や海外旅行の増加が予測され、2013 年も完全退職者層マーケットが注目される。

(図 2)この 1 年間(2011 年 11 月～2012 年 10 月)の国内宿泊観光旅行の回数



JTB旅行動向調査(戸別訪問調査)

2013 年の見通し

（国内旅行）

2013 年は週末 3 連休の回数が前年より 3 回増加し、GW、夏休み、年末年始というピークシーズン以外の旅行者数の増加が見込まれる。景気の見通しは不明瞭で賃金や収入の伸びはあまり期待できないが、「選択」消費の中でレジャー・旅行市場は一定程度維持されると期待される。ただし、節約志向は依然強く、また国内線のLCC拡大などもあり、平均消費額は 32,000 円（▲2.4％）と引き続き減少傾向が続くものと予測する。

・東京スカイツリー®、東京ディズニーランド®開園 30 周年などで引き続き首都圏に注目が集まる

2012 年 5 月に開業した東京スカイツリー®の 1 周年や 10 月に復元工事の完了した東京駅舎とその周辺をはじめ、東京観光の人気は 2013 年も持続する。加えて、2013 年 4 月 2 日には東京・銀座の歌舞伎座がこけら落とし、4 月 15 日に東京ディズニーランド®が開園 30 周年となるなど、首都圏への観光客のさらなる増加が見込まれる。

・伊勢神宮・出雲大社の遷宮遷座行事、重なる

2013 年は伊勢神宮の 20 年に 1 度の第 62 回式年遷宮の年にあたり、伊勢神宮では一年を通じて様々な遷宮行事が行われる。また、5 月 10 日には 60 年に 1 度のご修造の終わった出雲大社の「本殿遷座祭」が予定されている。近年、若い女性にも人気が高まり多くの参拝客が訪れているが、遷宮や遷座を機に伊勢方面や出雲方面への観光客の増加が更に見込まれる。

・ななつ星in九州の運行開始、新型鉄道車両の登場で鉄道の旅の魅力が話題に

2013 年は鉄道車両にも注目が集まる。JR九州は日本初のクルーズトレイン「ななつ星in九州」を 10 月に運行開始、3 泊 4 日と 1 泊 2 日の列車によるクルーズ旅行を設定している。JR東日本では、2013 年の冬以降に東北地方への旅行に「SL銀河鉄道（仮称）」を運行開始予定だ。また近畿日本鉄道でも 3 月より伊勢神宮式年遷宮に合わせて新型観光特急「しまかぜ」を運行する。単なる移動手段ではなく、乗ることが楽しくなるような新型車両の導入に、鉄道ファン以外にも鉄道を楽しむ旅が広がっていきそうである。

・大河ドラマの舞台「会津」、瀬戸内国際芸術祭 2013

1 月から始まる大河ドラマ「八重の桜」の舞台である会津地方が注目を集めそうである。また、瀬戸内海の小島を舞台にして 11 月まで 3 期に分けて開催される現代美術の国際芸術祭、第 2 回「瀬戸内国際芸術祭 2013」には、島の風景や暮らしの中で現代アートを楽しむために訪れる人が増えそうである。

・自然の中で活動的に過ごす旅も人気に

登山やハイキングなどのアウトドアを楽しむ人が増え、自転車によるツーリングに対する関心も高まっている。旅先でもレンタサイクルを借りてツーリングを楽しむ動きが出てきている。また、自然や文化を楽しみながら、山や街道を歩く「ロングトレイル」も注目を集め始めている。自らの足で地域や自然を訪れるムーブメントが人気を集めそうである。

（海外旅行）

2013 年の海外旅行人数は過去最高の 1,870 万人（前年比＋1.5%）と推計する。2012 年は、LCCを含めてアジアやハワイ、欧米などへの航空便数が増加しており、特に東南アジアやハワイへの旅行者が大きく増加している。日中関係、日韓関係の緊張で、中国、韓国への渡航者は 10 月以降大きく落ち込んだが、現状では、韓国については、先行予約の前年同月比が毎週あがっていることから、来年の年間の渡航者は 2012 年並と推計する。また中国はビジネスや滞在者の移動数が多いことから、2013 年後半には 2012 年同月を上回り、年間で95％程度になると推計する。平均消費額は円安によって現地消費額がやや減少することに加え、LCC拡大や便数の増加による運賃の競争も見込まれることから 250,000 円（▲0.8％）とやや減少するものと予測する。

・海外旅行が身近な目的地に。LCCの増加も選択肢を広げる

2012 年は円高とLCCなど廉価な航空券や旅行商品が下支えとなって過去最高の海外旅行者数となる見込み。国内で設立された LCC 3社も 2013 年以降、国際線の新規就航を計画しており、消費にとってはさらに多様な選択肢が広がる。日並びは 2012 年に比べて 3 連休が増えることから、3 日程度で行ける近隣都市やリゾートへは、国内と海外を比較して海外を選ぶ旅行者も増えると考えられる。

また、身近で何度も訪問する旅行先として、街歩きが楽しめる近隣の都市やリゾート地の人気がさらに高まり、若者を中心に、台北、マカオ、シンガポール、バンコク、ハワイなどへの訪問者の増加が見込まれる。

・短期間クルーズの就航で手軽なクルーズが注目を集める

2013 年は日本発着のクルーズが増える見込みで、クルーズ旅行に対する関心が高まる。4 月からプリンセスクルーズが外国船籍の日本発着クルーズとしては過去最大規模になる「サン・プリンセス」（総トン数 7 万 7000 t、乗客定員 2,022 人）による横浜と神戸を起点にした「ジャパン・ホーム・ポート・クルージング」を実施する。短期間で廉価なクルーズの登場でクルーズ人気がさらに高まると予測する。

・リピーターや記念旅行を中心にヨーロッパや南米への旅行も人気

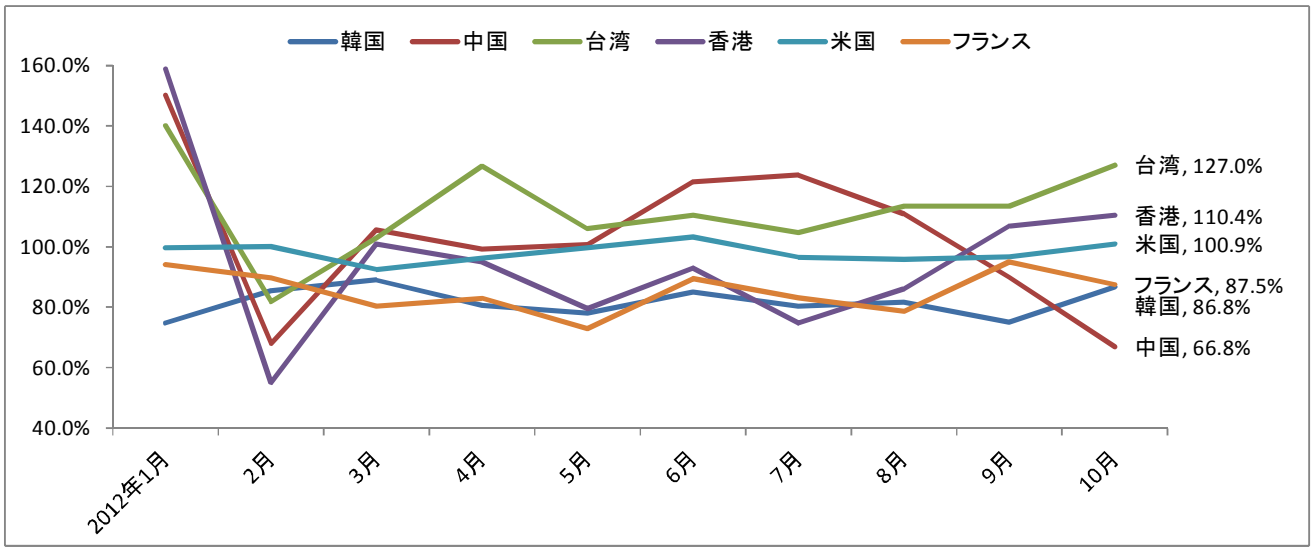
リピーターや記念旅行を中心にヨーロッパや南米への旅行の人気も高い。旅行者の旅行目的も多種多様であり、単なる観光地や景勝地を訪れるだけでなく、イベントや訪問地の文化や歴史を深く知るなど、個々の目的に合ったツアーや宿泊施設を選択する傾向が強まっている。ここ 2～3 年、二桁増で日本人旅行者が伸長しているドイツでは、2013 年はワーグナー生誕 200 年、グリム童話誕生 200 年を迎える。日本でも親しまれている題材をもとに、旅行会社も多くの商品を企画すると考えられる。

（訪日旅行）

中国との国際関係の悪化により 2012 年 8 月以降、中国からの観光客が大きく減少しており、2013 年前半までこの傾向は続くと思われる。一方、台湾、東南アジアからの訪問者数は順調に伸びている。韓国からの訪問者数は東日本大震災以降の回復が遅れているが、2012 年 8 月以降も 2010 年には及ばないものの、訪問者数に減少はなく、今後も緩やかな回復が期待される。欧州からの訪日は経済情勢により先行きが不透明だが、米国からの訪問者数は回復してきている。

2013 年は、韓国が前年並み、台湾、タイ、マレーシアなどアジア諸国からの訪日が延びると予測し、年間を通じての訪日外国人数は 890 万人（2012 年比＋7.9%）程度と予測する。

(図 4)　訪日外国人数の 2010 年同月比の推移



資料 ： 日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数・出国日本人数」より作成

2013 年の年間予定

日・ASEAN友好協力40周年 ワーグナー、ヴェルディ生誕200周年 グリム童話誕生200年		伊勢神宮　第 62 回式年遷宮 支倉常長　出航400周年 東京ディズニーランド®開園30周年
1 月	20 日（日）	米国大統領就任式
2 月	5 日（火） 10 日（日） 25 日（月）	さっぽろ雪まつり（～11 日） 旧正月・春節 韓国大統領就任式
3 月	2 日（土） 7 日（木） 20 日（水）	ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）第一ラウンド開幕　（福岡） 新石垣空港　開港 瀬戸内国際芸術祭2013　開幕
4 月	2 日（火） 15 日（月） 27 日（土）	東京　歌舞伎座リニューアル開場 東京ディズニーランド®　開園 30 周年 サン・プリンセス　日本発着クルーズ運行開始
5 月	10 日（金） 10 日（金）	出雲大社　「本殿遷座祭」 金環日食　（オーストラリア、パプアニューギニア、南太平洋）
6 月	15 日（土） 29 日（土）	FIFA コンフェデレーションズカップ 2013　（ブラジル） 第 100 回　ツール・ド・フランス開幕（～7/21）
7 月	16 日（火）	横浜ランドマークタワー　開業 20 周年
8 月	10 日（土）	世界陸上選手権大会（モスクワ　～18 日）
9 月	21 日（土）	会津まつり　（～23 日）
夏		大阪・阿倍野で「あべのハルカス」部分開業
10 月	15 日（火）	JR九州「ななつ星in九州」運行開始
11 月	3 日（日） 22 日（金）	金環皆既日食　（アフリカ、大西洋） 東京モーターショー　（東京ビッグサイト　～12 月 1 日）
12 月	11 日（水）	白神山地　世界遺産登録 20 周年

2012 年の推計

【国内旅行】

・国内旅行人数は2億 8,600 万人（前年比＋1.2%）、平均消費額は32，780円（前年比▲1.0%）と推計

2012 年の国内経済は、1-3 月期の経済成長率は 1.4%の滑り出しを見せたが、夏以降は円高や欧州経済の低調なども影響して輸出が大きく減少し、2012 年 7～9 月期の実質 GDP は前期比年率▲0.9%となった。秋以降は日中関係の悪化や円高による輸出産業の不振や衆議院の解散に伴う政局の不安定さもあいまって、先行きの不透明感が強まった。

一方で、2011 年 7 月の地デジ化に伴うTV購入需要の一巡やエコカー補助金終了に伴う自動車販売の減少などによる耐久消費財への支出の減少に比して、レジャーや飲食などの消費は底堅く、国内旅行需要は 2012 年を通じて堅調に推移した。東日本大震災を契機に家族や友人とのつながりを重視する傾向は続き、休日を利用して親しい人と過ごす旅行者も増えた。

また、LCCが相次いで運航を開始し、国内の旅行方面の選択肢を増やし、飛行機の利用者増の効果もあった。訪問先としては、復興応援のための東北方面への旅行、九州新幹線やLCCを利用した九州や沖縄、新しい施設の開業が続いた東京方面への旅行も大きく増えた。

【海外旅行】

・海外旅行人数は過去最高の 1,843 万人（前年比＋8.5%）、平均消費額 は 251,900 円（前年比▲1.6%）と推計

2011 年後半から旅行者数が増加傾向を見せていた海外旅行は、米ドル、ユーロに対する円高の進行、航空座席供給数の増加、LCCの就航増加などを背景に大きく増加した。2012 年の秋以降は中国、韓国との国際関係の影響で出国者数は鈍化したが、台湾をはじめベトナムやシンガポール、夏の家族旅行で人気だったハワイ、グアムなど近距離～中距離方面への訪問者数が前年比で10%を上回る伸びを示した。熟年層を中心に、米国本土やオーストラリア、ロンドン五輪で注目されたヨーロッパなど遠距離への旅行者数も堅調であった。よって、2012 年 1 月～12 月の年間旅行者数は史上最高の 1,843 万人程度になると推計される。特に 2010 年の羽田空港の国際化以降、首都圏からの出国者は増加を続け、2012 年1月～9 月の成田空港、羽田空港からの出国者数はともに前年比＋13%を上回っている。

【訪日外国人数】

・訪日外国人数は 825 万人（前年比＋32.6%）と推計

2012 年には東日本大震災と原発事故の影響も徐々に回復し、訪日外国人数は前年を大きく上回って推移している。6 月には訪日外国人数の総数が 2010 年 6 月を上回るまでに回復したが、韓国や欧州などの国からの訪問者数は前々年同月の水準までには回復していない。一方、タイ、マレーシアなどの東南アジアの国々からの訪日数は増加している。中国からの訪問者数は 2012 年 5 月～8 月まで前々年同月を上回り、順調な回復を示していたが、日中関係の悪化に伴い 9 月以降は前年同月をも下回る訪問者数にとどまっている。一方で、韓国からの訪問者数は 9 月以降も前年同月を上回っており、年間を通じた訪日外国人数は 825 万人（前年比＋32.6%）程度になると推計する。

2000 年～2012 年の推計、2013 年の見通し数値

年	総旅行人数(延べ人数)(万人)	国内旅行人数(万人)	海外旅行人数(万人)	国内旅行平均消費額(円)	海外旅行平均消費額(円)	旅行総消費額(億円)	国内旅行消費額(億円)	海外旅行消費額(億円)	平均旅行回数(回)	訪日外国人数(万人)
2000	34,326	32,544	1,782	36,940	312,300	175,900	120,200	55,700	2.70	476
	＋2.1%	＋1.8%	＋8.9%	▲1.2%	▲8.7%	＋0.2%	＋0.6%	▲0.5%	＋0.05	＋7.2%
2001	33,840	32,218	1,622	36,500	293,000	165,100	117,600	47,500	2.66	477
	▲1.4%	▲1.0%	▲9.0%	▲1.2%	▲6.2%	▲6.1%	▲2.2%	▲14.7%	▲ 0.05	＋0.2%
2002	34,042	32,390	1,652	35,550	293,800	163,600	115,100	48,500	2.67	524
	＋0.6%	＋0.5%	＋1.8%	▲2.6%	＋0.3%	▲0.9%	▲2.1%	＋2.1%	＋0.01	＋9.9%
2003	33,781	32,451	1,330	35,590	300,800	155,500	115,500	40,000	2.64	521
	▲0.8%	＋0.2%	▲19.5%	＋0.1%	＋2.4%	▲5.0%	＋0.3%	▲17.5%	▲ 0.03	▲0.6%
2004	33,036	31,353	1,683	35,660	292,600	161,000	111,800	49,200	2.64	614
	▲2.2%	▲3.4%	＋26.5%	＋0.2%	▲2.7%	＋3.5%	▲3.2%	＋23.0%	＋0.00	＋17.9%
2005	32,256	30,516	1,740	35,600	294,500	159,900	108,600	51,300	2.62	673
	▲2.4%	▲2.7%	＋3.4%	▲0.2%	＋0.6%	▲0.7%	▲2.9%	＋4.3%	▲ 0.02	＋9.6%
2006	31,794	30,041	1,753	34,310	297,200	155,200	103,100	52,100	2.60	733
	▲1.4%	▲1.6%	＋0.7%	▲3.6%	＋0.9%	▲2.9%	▲5.1%	＋1.6%	▲ 0.02	＋8.9%
2007	31,710	29,981	1,729	34,170	305,600	155,200	102,400	52,800	2.60	835
	▲0.3%	▲0.2%	▲1.4%	▲0.4%	＋2.8%	＋0.0%	▲0.7%	＋1.3%	＋0.00	＋13.9%
2008	31,251	29,651	1,600	33,760	286,300	145,900	100,100	45,800	2.51	835
	▲1.4%	▲1.1%	▲7.5%	▲1.2%	▲6.3%	▲6.0%	▲2.2%	▲13.3%	▲ 0.09	＋0.0%
2009	30,455	28,910	1,545	31,940	253,400	131,500	92,300	39,200	2.25	679
	▲2.5%	▲2.5%	▲3.4%	▲5.4%	▲11.5%	▲9.9%	▲7.8%	▲14.4%	▲ 0.26	▲18.7%
2010	30,808	29,144	1,664	32,020	251,900	135,200	93,300	41,900	2.29	861
	＋1.2%	＋0.8%	＋7.7%	＋0.3%	▲0.6%	＋2.8%	＋1.1%	＋6.9%	＋0.04	＋26.8%
2011	29,969	28,270	1,699	33,100	256,000	137,100	93,600	43,500	2.35	622
	▲2.7%	▲3.0%	＋2.1%	＋3.4%	＋1.6%	＋1.4%	＋0.3%	＋3.8%	＋ 0.06	▲27.8%
2012	30,443	28,600	1,843	32,780	251,900	140,200	93,800	46,400	2.39	825
	＋1.6%	＋1.2%	＋8.5%	▲1.0%	▲1.6%	＋2.3%	＋0.2%	＋6.7%	＋0.04	＋32.6%
2013	30,570	28,700	1,870	32,000	250,000	138,600	91,800	46,800	2,40	890
	＋0.4%	＋0.3%	＋1.5%	▲2.4%	▲0.8%	▲1.1%	▲2.1%	＋0.9%	＋0.01	＋7.9%

＜報道関係の方からの問い合わせ先＞

JTB 広報室　03－5796－5833